

ジェット機の騒音に不安

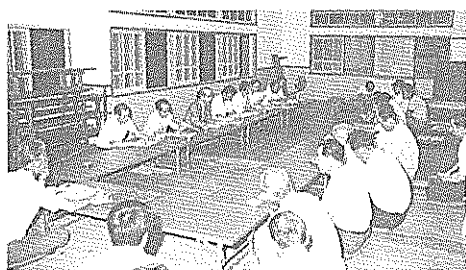
地区民、引続き周辺整備を要望

日章地区 市政こん談会

ジェット機就航第一便が十二月十六日に決まり、いよいよジェット化時代に進む高知空港。しかしその一方、地元にとっては周辺整備事業の積み残しや、実際にジェット機が飛んでからの騒音被害など、まだまだ問題も残る日章地区で八月二日、地区公民館で地元住民約三十名が集まり市政こん談会が行われました。市からは、小笠原市長をはじめ関係課長が出席、前もって各部落から取りまとめたあった問題について、約二時間ひびを交えて話し合いました。

討議内容

□現在騒音区域指定の線引き(コンター図)によって防音工事が進



日章地区での市政こん談会

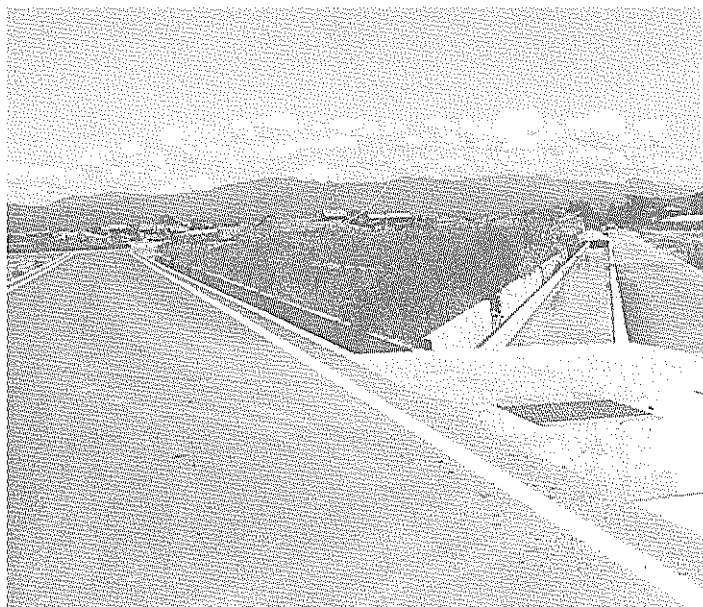
められているが、実際にジェット機が飛んだ場合は誤差が生じるのではない。

■コンター図は、国が他の空港の状態やもろもろの条件を分析し科学的に決定したもので、本来はだ円形となりますが、道路や水路などで区切るためノコギリ型となっています。

この騒音区域は、かなり正確なものであると思いますが、あくまでも予想図ですので、ジェット機がある便数に達した時点で、運輸省は騒音測定をすることになっています。市としても、その働きかけを国に積極的に行っていくつもりです。

□部落によって、周辺整備事業の不均衡があるのでは。

■各部落から出ている空港周辺整備対策協議会の委員さんを通じ、地元で十分な協議をしてもらい、



周辺整備はできつつあるが、騒音に不安は残る…

予算配分をして事業を進めています。

しかし、面積割や代替地の提供率などのいろいろな要因もあり、各部落によって違いが生まれていることも事実です。

□今まで二十億円余りの周辺整備事業が進められてきたが、当初の要望より低く、今後の見直しはどのようなものか。

■五十九年度以降について、事業の推進を陳情しているが、今のところゼロではないという返事で、

具体的な金額についてはわかっていません。

□六月五日の市内一斉清掃には、青年団も協力し空き缶拾いなどを行ってきましたが、その数の多さには驚きました。市内全体の状況はどうか。また今後の対策は。

■一斉清掃には、ご協力ありがとうございました。

残念ながら、空き缶やビン類などの「ボイ捨て」は減っていません。また不法投棄も後をたたず、その処理のために数十万円の費用がかかることもあります。

これからは環境美化のピーアールとともに、各部落単位で草の根的運動を盛り上げていく必要があると思います。

□立田公民館は屋根の痛みがひどく、補修して欲しいが。

■雨漏りの状態を調べ、早急に対処します。

□公民館活動など、社会教育のための予算はどれくらいか。

■教育費十二億円のうちの約一億四千万円が社会教育のために使われており、全体的に見て劣っていないと思います。

話し合いの中で、地元住民は、空港ジェット化によって県全体としてはメリットが生まれることはわかっているものの、地元が受ける騒音被害に対して、まだまだ不安も残っているようでした。